

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第16巻

<https://doi.org/10.15017/4475397>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 16, 2020-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：

1.はじめに

日本では平成から令和へと年号が変わり、新たな時代を迎えました。九州大学においても4月にアジア・オセアニア研究教育機構が正式に発足し、アジアを中心とした国際的な活動に新しい流れが生まれました。その中の6つのクラスターには医療・健康クラスターが含まれ、当センターを中心に活動が開始されました。

本年度は、2つの新たなプロジェクトが立ち上がりました。1つは国立研究開発法人国立国際医療研究センターが主催する医療技術等国際展開推進事業で、「ミャンマーにおける医療水準の均霑化をめざした人材育成事業」です。医師と技術研修者の両者を現地および日本において研修し、直接的な指導に加え、遠隔医療教育を活用することによりミャンマー国内における継続的かつ効率的な教育体制を確立することです。2つめは厚生労働省の「日露医療協力推進事業」で、ロシアにおける予防医療と先進医療の推進を目的に健診システムや癌の早期診断などを普及させることです。丸紅株式会社との覚書を締結し、実地研修と遠隔教育による継続的かつ効率的な貢献を目指しています。

各国における遠隔医療ワークショップも拡大し続けています。6月にはキルギスで、10月にはブータンで初めての会を開催しました。また3月にネパール、4月にベトナム、11月にインドネシア、1月にはミャンマーで昨年に続き開催し、多くの医療スタッフと技術者が参加し領域を超えた活発な議論が交わされました。

今年から新たに企画されたプログラムとしては、ブラジルの日系病院との間に始まった日本食のテレカンファレンスが筆頭に挙がるでしょう。6月に6名の栄養士を九大病院へ招聘して栄養管理室で実地研修を行った後、帰国後に現地での新たな日本食のメニューを紹介し合う形でテレビ会議が開始されました。また超音波内視鏡のカンファレンスが本格的に開催され始めた他、ベトナムとの脳卒中のテレビ会議も初めて企画されました。また国内でもゲノム医療が承認されたタイミングで、癌ゲノムのテレビ会議が国内の複数施設を接続して毎週実施されるようになりました。医系地区のみならず、本学との共同プログラムへの展開も始まりつつあります。

遠隔教育は実際の人的交流の上に成り立ってこそ、その効果を十分に発揮します。今年度も数多くの医療スタッフや技術者を研修に招聘し、また様々な国や医療施設を訪問して新たな交流の契機とすることができました。来年度は日本でオリンピックが開催され、国際化にもより一層の発展が期待されています。当センターもこれまで以上の展開を目指して努力したいと考えています。ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

令和2年3月

九州大学病院国際医療部 アジア遠隔医療開発センター センター長

清水 周次